

慌ただしさの中で

慌ただしさの中で
昨日のことさえ、忘れてしまう。そんな日常の中で
思い出すことは
貪り愛し合った愛でもなく
恋こがれそれでも叶わなかった恋でもなく

まだ、恋の形さえ分からないまま
回りの幸せの中で、どこか取り残されていた二人が
惹かれ合って
始まった背伸びした少年と少女の頃を思い出す。

似たようなそれも少しだけ歪んだ環境は
お互いを惹きつけ
言葉さえ気遣い相手を傷つけないように
ぼつり、ぼつりと話ながら学校帰りを歩く。

やがて、触れることも無いまま
互いの進む道が違う中で
自然と離れていった恋を
思い出す。

ドラマが過去を呼び起こす

ドラマが過去を呼び起こす

「Nのために」

テレビで流れる誰かが誰かを想いやる

自分にとってのその誰が

走馬灯のように頭の中で駆け巡る

慌ただしさの中で

思い出した幼い初恋

少年の家庭は家業の倒産

少女の家庭は離婚

中学3年秋互いに居場所を無くしていた

冬に向かう海岸通り

冬に向かう海岸通り

手が届く距離を

少しだけ離れて歩く

松林に吹く海風は少し冷たく

揺れる松葉から差し込む光は

眩く

彼女の顔を時折

輝かせる

振り返る少年に

時々

彼女の

少し寂しげで不安そうな微笑は

彼女を想う少年の心をざわつかせる

手首に薄っすらと血の筋が残るほどつよく

手首に薄っすらと血の筋が残るほどつよく
ナイフを押し付ける

この世から消したいのは、私の回りの者達
いや
私自身だろうか？。

取り壊し前の古い校舎は

取り壊し前の古い校舎は
コンクリートの冷たさと冬の雲間から時折
廊下を照らすぼやけたセピア色の光の中できらめく埃

去年卒業した生徒の書道の紙がちぎれて
風に回っている。

プロット 映像

ストップモーション

落ちていく。

飛んで行く。

ゆるやかに時間を流れ

その中で音楽と言葉が流れていく。

青い空。

学校から数分歩けば、ひなびた駅舎がある。

学校から数分歩けば、ひなびた駅舎がある。
毎日、一時間に一本程度の電車が止まりゆっくり動き去る。
僕たちは手をつなぎ、駅に走りだし
歩道橋を駆け上り
電車に飛び乗った。
地方の海岸線を電車はゆっくりと速度を上げていく。
海岸線から真冬の海が照らされて
キラキラと車内を照らす。

海に一番近い小さな集落の駅で降りて
僕らは海へ歩いて行く。

誰も人通りのない民家の細い道を抜け、国道を渡り、防波堤の開かれた階段を降りていく。

冷えきったコンクリートが僕達の体温を奪う

冷えきったコンクリートが僕達の体温を奪う。
剥がれ落ちたペンキの跡のザラザラとした触感が
白いシャツを通して伝わる。
数段登ると開放口から月光が差し込む。

古びた町営アパートの階段の踊り場で

古びた町営アパートの階段の踊り場で
抱き寄せ、暗闇に目が慣れないままにキスをした。
慌てたキス、歯が少し彼女の歯に当たり
ごめん。と呟き
伏せた彼女の顔を覗きこんだ。
月光が背後から差し込む。冬の12月の光は
冷え冷えとした青白く彼女の髪を照らした。